

1. 開催日時

令和6年7月25日(木)

開会：午後1時30分

閉会：午後2時59分

2. 開催場所

東庄町役場 1階 多目的ホール

3. 議題

教育を行うための諸条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換

① 部活動の地域移行について

② その他

4. 出席者

東庄町長 岩田 利雄

教育委員会

教育長 石橋 宏克

教育長職務代理者 岩井 利幸

教育委員 林 英伸

教育委員 秋元 悦子

説明員

教育課長 宇ノ澤 修

教育課生涯学習担当課長 郡 伸明

事務局

総務課長 堀江 弘之

総務課長補佐 高柳 隆之

5. 欠席者

教育委員 青野 敬

6. 傍聴者

7名

7. 議事の経過

別紙のとおり

令和6年度第1回東庄町総合教育会議 会議録

日 時 令和6年7月25日(木)

午後1時30分から

会 場 東庄町役場 多目的ホール

(午後 1時30分 開会)

○堀江総務課長 それでは、ただいまから令和6年度第1回東庄町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、町長挨拶。町長、お願いいたします。

○岩田町長 本日はご多忙のところ、また、大変、暑い中、委員各位には、令和6年度第1回総合教育会議にご参集を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の総合教育会議は、『部活動の地域移行について』が議題の内容となっております。スポーツ庁と文化庁が策定をいたしましたガイドラインによりますと、今後は学校部活動が段階的に地域に移行されることとなっております。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化をし、そして、学校・地域に求められる役割も大きく変わっていくことと思います。地域社会と連携を強め、子供たちの健全育成を図るための事業の推進が非常に重要なものであると考えております。

皆様方には、町教育に関する課題を共有し、今後の施策の方針等について有意義なご意見を賜りたくお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○堀江総務課長 ありがとうございました。

続きまして、教育長挨拶。教育長、お願いいたします。

○石橋教育長 それでは、今年度の総合教育会議に先立ちまして、一言ご挨拶いたします。

今年は、梅雨が明ける前から暑い日が続いており、学校においても熱中症に十分注意を払いながら、7月19日の終業式をもって1学期が終了し、夏休みに入ったところです。中学校においては、部活動の郡市大会がほぼ終了し、陸上競技で3年生の生徒が、関東・全国大会の出場を決めました。また、卓球も男女とも県大会出場が決まったと、報告を受けております。

さて、私が教育長として就任してから3回目の総合教育会議となります。

令和4年度は、学校・家庭・地域の連携がとても重要であるとの認識から、「コミュニティスクール」、いわゆる学校運営協議会の導入と地域学校協働活動の充実について、皆様からご意見をいただきました。その後、様々な規則を整備し、学校運営協議会を発足させ、現在、充実した会議が行われているところです。

令和5年度においては、ふるさと教育について議論を行いました。東庄町には豊かな自然、そして各地域に受け継がれた文化と伝統、さらに古い歴史などがあります。それを再認識し、ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めていく教育が重要であるという認識から、ふるさと教育について再認識をしたところです。

具体的に、東氏に係る歴史の学習、郡上市との教育的な交流、それから利根川下流の野鳥観察会やワンド（利根川の河川敷に人工的に作られた入江）の生物観察、ヨシ焼、あるいは石出堰親水公園の自然観察会などがそれに当たります。

今回は、中学校における部活動の地域移行、特に土曜日や日曜日、そして休日における地域クラブ活動への移行をテーマに、国・県の施策と動向、そして東庄町の取組について現況を報告したいと思います。その後、皆様から質疑やご意見をいただき、分かる範囲でお答えしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上、まとめませんが、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○堀江総務課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただきます。議事進行は町長にお願いいたします。町長、よろしくお願いいたします。

○岩田町長 それでは、今回は、教育を行うための諸条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

○高柳総務課長補佐 本日は、総合教育会議の協議・調整事項の一つであります、『教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策』について、今回の会議では、『部活動の地域移行』という内容について意見交換をしていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○岩田町長 それでは、私から部活動の地域移行についての論点の一つとして述べた後、今後、協議を進めていくべき論点について意見を交換していただければと、そのように思うところであります。

部活動は、体力向上、そしてまた健康増進、人間形成の場として、教員、保護者、児童生徒、全ての者が全力をかけて取り組んでいたわけであります。本町の小中学校においても、他校に負けないよう、平日、休日を問わず努力し、勝利を目指してまいりました。

私たち団塊の世代やその子供たちの世代など、子供が多かった頃は1学年300人というのがざらでしたが、少子化が進んだ現在では、中学校3学年合わせてもその300人に満たない状況であります。この状況で以前と同様な形で部活動を運営するのが困難となっていくのは仕方がないと、そう思われるという点もあります。

また、教員の昨今の働き方改革という観点から、以前のように「プライベートを犠牲にして部活動を」という考え方が変わってきています。

本日は、これら東庄町における部活動の地域移行について、忌憚のないご意見をいただきたくお願いを申し上げる次第であります。また、その中から

いろんなものが洗い出されていくと思います。よろしくお願いします。

それでは、教育長から部活動の地域移行の概要について説明をいただきたいと思います。

○石橋教育長 それでは、私から、国・県の施策の概要について説明をさせていただきます。なお、町の現在の状況については、郡生涯学習担当課長から説明いたさせますので、よろしくお願いいたします。

かつて、部活動は学校教育の一部として認識され、「教育のために全力で部活動を」、「技術こそ体育の根本」、「先生が頑張ってくれる」、「中学生になったら土日は部活動だ」という考えが根強くありました。

私たちもこの環境の中で育ってきました。特に東京オリンピックが行われた1960年代、そして70年代には、部活動の競技力の向上を目指し、部活動の充実が叫ばれていました。1980年になって、部活動の視点から人間形成が求められるようになりました。この辺りから非行が全国的に広がり、学校が荒れました。そして、部活動でその非行を止めようというような状況がありました。加えて、部活動の技能を重視した事業が行われてきました。

2017年頃、「共生社会と生涯スポーツの実現に向けて」という議論がされ始めます。そして、2回目の東京オリンピックが行われた2021年頃から「スポーツの多様な価値を共有して生涯スポーツへの移行が必要だ」という意見が大勢を占めるようになります。そして、スポーツ庁、文化庁が、中学生における部活動を学校部活動から地域へ移行するべきであるという方針を打ち出します。

では、学校教育の中で部活動はどのように規定されているかについてお話しします。文部科学省が発行している「学習指導要領」の規定では「運動部活動は学校教育の一環として行われるスポーツ等に興味を持つ児童生徒が、教員の指導の下に、主に放課後などにおいて自主的、自発的に運動等を行うものであり、生涯にわたって親しむことのできるスポーツ等を見いだす格好の機会であるとともに、体力の向上や健康の増進にも効果的な活動である」となっています。

教員は、「子供たちのために」という合言葉の下、専門的な指導ができる

顧問も、慣れない顧問であっても一生懸命に子供たちの指導に当たってきました。いつの間にか、部活動は「勝たなきゃ駄目だ」というような状況が生まれ、勝利至上主義が流行ってきました。加えて、保護者の部活動熱も高まっています。すると、「保護者の顧問への要求」が拡大し、「顧問をやったことのない部活動でも指導してほしい」、「土日も休まず指導してほしい」、「子供たちの面倒を見てほしい」という状態となり、「面倒を見てくれる先生は良い先生」、「部活動を見てくれない先生はダメな先生」という見方をする保護者が増えてきました。教員による土曜、日曜等の指導の拡大が「教員の負担」をさらに招いていくことになりました。

また、専門性を欠く顧問の負担増という問題もありました。私のことで恐縮ですけれども、私は野球を経験しました。でも野球部の顧問になったのはわずか数年です。そのほかは何をしたかというところ、最初に水泳部、その次に野球部、その後、バスケットボール部、テニス部、野球部でした。ようやく野球部に戻れたと思ったら、学校事情によりテニス部、そして最後は野球部で終わりました。このように、自分が経験や専門性がない部活動でも、学校現場の異動や学校事情により部活動の顧問がかなり変わるという状況にありました。

さらに教員の立場だけでなく、生徒にとっても、自由な時間がなく部活動に縛られることが多くあります。若者の多くの方々は「中学の時の土日は休む間もなく部活動を行っていた」という経験があるのではないのでしょうか。

他にも、教員の働き方改革のための、現状の改善や少子化による部活動の非成立も課題の一つです。部活動の非成立についてお話しすると、中学校には必ず野球部がありました。しかしながら、今では、一中学校で野球チームを組むことが困難となり、2～3校、あるいは、4校～5校が合同チームを結成しなければならないという状況も出てきています。

このような状況を踏まえて、千葉県においては、「誰もがやりたいスポーツができる」というスローガンの下、中学校で行う部活動を「学校部活動と地域クラブ活動」とに分けます。学校部活動とは、月曜日から金曜日までの間で、放課後に行う部活動の事を指します。また、地域クラブ活動とは、土日や休日に行う活動をとらえています。

そして、その地域クラブ活動を充実させるために、市町村の自治体が入って、それを統括していく仕組みをつくってほしいということが、今回の「部活動の地域移行」という国・県の方針です。

国は、令和5年度から令和7年度までを部活動の集中的な改革推進期間とします。特に、千葉県においては4段階での改革が示されました。

令和5年度は、各市町村一つの部活動だけを地域クラブ活動として移行することが示されました。東庄町では、バドミントンクラブを地域クラブ活動への移行ということでお願いしました。令和6年度は、各学校で一つ以上を地域に移行しなさいということになっております。現在、各種団体と交渉中です。令和7年度においては、複数の部活動について地域クラブ活動への移行をすることになっています。また、令和8年度以降は、可能な限り、ガイドラインに沿いながら地域クラブ活動へ移行するよう指導されているところです。

本年度の東庄町においては、卓球部活動を地域クラブ活動への移行を考えており、町から予算をいただき、実証事業を行っているところです。国・県の動向については以上でございますので、東庄町の様子について、これから郡担当課長から説明をいたさせます。

○**郡生涯学習担当課長** それでは、町の部活動の地域移行の状況についてご説明申し上げます。

東庄町教育委員会では、部活動の地域移行を進めるに当たり、令和5年度に東庄町地域部活動検討委員会を立ち上げました。地域部活動検討委員会の構成は、町スポーツ推進審議会、町スポーツ協会、町スポーツ少年団の各代表、小中学校の校長、小中学校の保護者代表、教育課長、生涯学習担当課長、学識経験者の11名で構成されています。

現在までの取組状況を説明します。令和5年度は中学校にない部活動ですが、既に中学生が参加していましたので、バドミントンの地域クラブの協力を得て、休日における地域クラブ活動への移行としました。また、生徒への説明及び中学校新入生保護者説明会において「部活動の地域クラブ活動への移行」に関する説明をその都度行いました。

令和6年度には小中学校PTA総会、文化協会の総会、スポーツ協会総会、スポーツ少年団の会議において「部活動の地域クラブ活動への移行」について説明を行いました。また、6月27日に文化協会、スポーツ協会及びスポーツ少年団の加盟団体、地域で活動している団体を集め、説明会を開催しました。今後は、9月から卓球の地域クラブを立ち上げます。これは、公費を使い、移行の課題や問題点を洗い出す実証事業として行います。

卓球クラブは、9月から月2回、土曜日の午前、中学校の1階ホールにて活動を始め、11月に行われる第3回地域部活動検討委員会においてその実証事業の検証を行います。その後、第4回地域部活動検討委員会を1月に、中学校新生保護者説明会などを行う予定です。

また、その他の各団体に休日の地域クラブ活動の中学生の受入れについての依頼を行う予定でもいます。例えば、旧東城小学校にありますドローン協会や陸上、弓道の団体への協力依頼、学校部活動と同じ種目や分野の地域クラブへの協力依頼を考えております。

部活動の地域クラブ活動への移行によるメリットは、①生徒がチャレンジしたい活動の選択肢が広がり、②専門的な指導が受けられる、③教員の長時間労働の削減につながる、④学校活動以外での交流が生まれるなどが挙げられます。一方、部活動の地域クラブ活動への移行には様々な課題もあります。①指導者や受皿となる団体の確保、②活動場所の確保、③活動費や送迎などの保護者の負担が増える、④各大会へ出場する必要がある学校と地域クラブとの調整、⑤学校部活動と地域クラブの指導者が異なることによる指導方法の違いなどが生じるなどの課題がございます。

以上で町の部活動の地域移行の現況についての説明を終わります。

○**岩田町長** 今、足早に説明させていただきました。部活動の在り方そのものが大きく変わってきたということでもあります。そこで皆さん方からいろんな意見等を賜りたいと思います。

ではまず、岩井委員からお願いします。

○**岩井教育長職務代理者** 岩井です。よろしくお願いします。

郡担当課長の話を聞くと、今、卓球部が実証事業ということで、その結果を見て検討してから詳しい話を伺いたいと思いました。

その前に、私としては、部活動とスポーツの違いを考えたいと思います。親は子供に健やかに育ってもらいたくてスポーツを始めさせます。けれども、次第に競技志向になって、熱をおび、教員の指導に疑問を持ったり、子供にも負担がかかったりと様々な課題が出てきてしまいます。やはり、スポーツの語源はラテン語の日々の生活から離れること、すなわち、「気晴らし・休養・楽しむ・遊ぶ」ということから来ています。スポーツという言葉の原点を考えながら、もし部活動がスポーツという考え方ならば、「子供のために進めていく」ことが大切となるはずです。

以上です。

○**岩田町長** 続けて、林委員お願いします。

○**林教育委員** 教育委員の林です。よろしくお願いいたします。

この部活動の地域移行という課題はもう数年前から議論されていますが、見通しとしてはかなり厳しいということが正直なところではないのでしょうか。地域クラブへの移行というような形で、国・県の施策をそのまま進めていっても、「東庄町単独」で、どのような部活動が、どのような規模で、どこまで維持できるのかと考えると、かなり見通し的には厳しいと思います。今日は総合教育会議なので、ちょっと夢見がちな話もさせていただきますが、もう地域という言葉にとらわれずに、例えば、サッカーでいえば、鹿島アントラーズ所属のチームやその他多くのサッカーチームがこの地域にもあります。また、茨城県内にはグラウンドもかなりある状況であり、施設が整っています。「県をまたいだ形での参加」ということも考えなければなりません。それを「町行政がどこまで支援するのか」ということが、さらなる課題として出てくるものと思われま。

このような意味で、国・県の施策やプランが、かなり大雑把な形なので難しいと考えています。「都市部は受皿がいっぱいありますが、地方部は受皿が厳しい」というのは、香取郡市の市町でも同じだと思います、だからそう

いう市町同士の連携も必要でしょうし、強みを持っている地域と連携をするということも積極的に取り組んでほしいと思います。すると、結果的にはいろんな形のものが出来上がってくると思います。

以上です。

○**岩田町長** ありがとうございます。

それでは、秋元委員お願いします。

○**秋元教育委員** 教育委員、秋元です。よろしくお願ひいたします。

親の部活に対するイメージ、概念が昔と違うというのを、私たちがもっと理解しないといけないと思います。今こうして話し合っていることや部活動の地域移行に関する内容や進捗状況を保護者や多くの方々に理解してもらう機会をつくる必要があります。また、あれもこれもと部活動を増やすのは不可能なので、「東庄でできる部活」ということを考える必要があると思います。

東庄町が力を入れている「ドローン」について興味を抱きました。東庄町において、ドローンに関する映像がテレビで流れたり、自衛隊の方々が東庄町に来て練習したりしている状況があるといいです。町が力を入れたいのであれば、「ドローン」に関する内容を地域のクラブ活動として取り入れ、子供たちへの興味付けを行うことが重要であると思います。

以上です。

○**岩田町長** ありがとうございます。

○**石橋教育長** 委員の皆様からご意見いただいて、感じたことについてお話しさせていただきます。

まず、岩井職務代理がおっしゃったように、スポーツという原点に返ること、これは本当に大切なことです。例えば、今の中学校における部活動は運動部活動＝スポーツではありません。中には、「勝ちたい、そして技能を向上したいという生徒」がおり、一方で「健康のため、好きだからやっていこ

うという生徒」もあり、その温度差は大きい状況です。技能を向上させたいと思う生徒や保護者は「クラブチーム」を選択する場合があります。

実際に東庄中学校ではいろいろな部活動がありますが、その中でサッカー・バスケット・野球などにおいては、技能を向上させたいという生徒や保護者はクラブチームに所属する例が多々あります。例えばサッカーであればアントラーズのチーム、野球であればシニアチーム、陸上の専門クラブなど、クラブチームで指導を受け活動している生徒が多々います。

このような生徒は、土日や休日に通いながら練習をしていますが、平日はなかなかその会場に行くことができないので、平日は別の部活動で活動することが多い現状です。

土日や休日に地域クラブ活動への移行が行われるようになると、大きな課題があります。それは、土日・休日に保護者による送迎ができない生徒、クラブ活動に参加したくても家庭の事情により参加ができない生徒、運動等の活動を嫌がりクラブにはいない生徒などが出てくる可能性があるということです。このような子供たちをどうしたらよいのかという大きな課題があると思います。「家に籠もる、パソコンやゲームに没頭」する生徒の姿を想像してしまいます。数年、数十年前に、流行った「非行、不登校」につながる状況も考えられます。そこで大切なのが「生涯学習の在り方」であると思います。つまり、土日の活動を充実させる「生涯学習の充実」がとても大切なキーワードとなることでしょう。

二つ目は、林委員のご意見で、「県をまたいでの部活動」についてです。東庄町の対岸には、神栖市があります。非常に近いところで行っているわけですから、そういった動きを考えなければならないと思います。現状では、「市町村、県内」というのが国・県の方針です。

三つ目は、秋元委員がおっしゃったように、保護者や私たちの考えや理解・イメージを変えなければいけません。これには広報活動が必要となります。また、国際ドローン協会では、文化系のクラブ活動として「情報クラブ」みたいな形で、ドローンで映像を撮影したり、編集したりするなどできるクラブ活動の在り方を模索しているところです。

以上です。

○**岩田町長** いろいろなご意見をいただきました。

実は私ごとで大変恐縮ですが、中学校に部活に入っておりませんでした。特別「この部に入る」とかというのはしていませんでした。ただ、試合が近づいてくると、柔道や陸上競技に引っ張り出された気がします。ですから様々な競技に出ておりました。部活として活動していたのは、主に野球部だけ、バレー部ぐらいだと私は記憶しています。

ただ、今は、学校にない種目や得意な種目は民間で行っているところに行き指導を受けます。学校の授業が終わったらもうすぐそこへ行って、きちんとした指導を受けるというような形もあります。水泳・サッカー・野球も様々な地域にクラブチームがあり、活動を行っています。今はそういうような状況下ではないのかと思います。

最近の傾向とすれば、クラブチームの入会については、地域をこだわらず受け入れています。学校対抗の部活動は、今後、消滅していくのではないかと思います。部活動そのものの在り方が変わっているということと、将来的なことはよく分かりませんが、果たしてこういう形のものが、今後どうなっていくのでしょうか。教育長、どうでしょうか。

○**石橋教育長** 町長がおっしゃったように、その在り方は変わってきています。ただ、今のところ学校対抗は続いています。しかしながら、近い将来、学校対抗はなくなっていく可能性はあります。

中学生の地域クラブへの移行はまだ始まったばかりです。香取郡市においては、香取小中学校体育連盟という組織がきちんとしていますし、県や全国規模の組織も健在です。ただ、最近の報道で公表されているように、水泳や体操などの競技の全国大会中止が決定しているようです。

また、東庄中学校の生徒が様々な地域のクラブチームに入会して、それに参加しているというのは現実に起こっております。例えば、サッカーで鹿島アントラーズのチームに入ったり、バスケットで船橋のクラブチームに入ったりしている生徒がいます。

以上です。

○林教育委員 ちょっといいですか。

○岩田町長 はい、どうぞ、林さん。

○林教育委員 まさに町長が、今、おっしゃったその点で、限られた人的リソース、つまり、東庄町内で、専門性がある教員を集めようと思っても、ほとんど不可能だと思います。その少ない人的リソースをどう利活用化しようかと考えたときに、発想の転換をして、「送迎が保護者にとって負担」であれば、「送迎をする人を行政として用意をしてあげる」という考えも必要ではないのでしょうか。「優秀な指導者がいるところにこちらから送り込んであげる」、「送り込む方法を考えてあげる」というのも、発想の転換としていかがでしょうか。そういう意味で、地域や地方、県をまたいで指導の充実を図ることも考えても良いのではないのでしょうか。

それからもう一つは、教員の負担軽減という観点からの働き方改革が注目されます。働き方改革自体を否定するつもりは全くありません。例えば、今、高校野球が花盛りです。恐らく今回の全国大会も出てくる高校というのが、ほとんど私立の学校ではないのでしょうか。では、私立の学校は、地域移行という形で部活動しているかといったら、それは違います。コーチを専属で雇っている学校もあるかもしれません。そして、優勝を目指して大会に臨んでいる学校が多いと思います。そして、結果的に私立学校が甲子園に出場しています。サッカー・体操も同様でしょう。では、どこに差があるのかというと、やはり指導者じゃないかとも考えます。「指導者が情熱を持って取り組んでいる」というところだと思います。このように考えると、単純に地域移行といって国のほんわかとした雰囲気の施策が全て正しいのかどうかというと、疑問を持ちます。

中学生の部活動を地域のクラブ活動への移行することについて、行政と学校・地域がきちんとその進め方を考えていかないと、向かう方向が違ってきってしまうという危機感を感じているところです。

以上です。

○石橋教育長 ありがとうございます。すぐれた指導をしているクラブチームへの送迎という新しい発想、これもまた良い視点であると感じました。

それから二つ目にありました、私立と公立の関係、これも林委員の言われる通りです。実際、東庄中学校の生徒の中にも、運動で進学したいという生徒がいます。その生徒のほとんどが私立志望の生徒たちです。私が校長をしていた時の生徒たちは、陸上で福島の学法石川高、バトミントンで木更津総合、バスケ・卓球で、拓大紅陵、陸上で成田、鹿島学園など様々な私立高等学校に進学しました。

また、高等学校に入学してから弓道で頑張った生徒がいます。佐原高校、市立銚子高校で非常に良い成績を残してくれた生徒たちもいます。東庄中学校の生徒でいます。そういった現状もあります。

教員の中にも真剣に「やる気と情熱」を持っている教員もいます。そのような方は今後、兼業届を出していただく形になろうかと思えます。行政を軸に学校と地域とで慎重に考えていかなければならないと感じました。ありがとうございます。

以上です。

○岩井教育長職務代理者 林さんの意見に反対するわけでは全くありません。

私から弓道の話をしていただきたいと思えます。私は10年ぐらい前から、弓道を始めました。東庄町の人、大人になってから弓道を始める率が高いのです。千葉県の弓道協会の方々に言わせると、「東庄は素人を弓道好きにさせるのがすごく上手だ」というわけです。弓道は普通、すごく敷居が高くて、始める人が少ない状況です。続ける人も少ないのに、「東庄は、続ける人がすごく多い」というのです。それはなぜかという、「素人に弓道の楽しさを教える先生がいる」からなのです。しかもその先生は高段者ではありません。私たちにとっては身近な先生なのです。しかも、弓道には教士とか範士とか、錬士とか称号がありますが、その称号を持っていない方で、指導をしていただいているのです。

その人が東庄中学校の「日本文化体験」の授業の講師となり、生徒たちをしっかりと教えてくれています。それで中学生が弓道を好きになっています。

弓道を好きになった生徒が高校に行って、一から弓道を始め、全国大会に出場した生徒がいます。やはりスポーツの根底には「好きだ」という気持ちを持たしてあげないといけないのではないかと思います。はじめから、上に上がるような階段をつくってしまうと、挫折したときに、心配になります。

○**林教育委員** 例えば、サッカーが好きという前提で「東庄F C」のようなクラブチームに入り、技術的な指導を受けることが考えられます。町の中にこのようなクラブチームが増え、学校部活動と切り離して活動できるようになると良いのではないかと思います。また、小学校においては、「放課後子ども教室」の講座で、様々なスポーツを経験できる機会をつくってあげ、「好きなスポーツ」を増やしていってもらいたいと思います興味を持つというところは部活動やクラブ活動を行う前提となると思います。

○**岩田町長** 秋元委員いかがですか。

○**秋元教育委員** 「スポーツを好きになる」「興味を持つ」という興味づけは、小学校3年生ごろまでに行う必要があると思います。小学校3、4、5、6年生の放課後や週末の過ごし方がとても重要です。

また、幼児や児童の中には肥満の子が多いという現状があります。週末や普段の生活に問題があると思うのですが、そういった小学生に生涯学習の一環としてスポーツに触れる機会やカリキュラムがあると良いのではないかと考えます。

このような意味からも小学校の低学年段階で興味づけをする必要があると考えます。

○**石橋教育長** 各委員の皆様から貴重な意見をいただきました。中でも、「スポーツを好きにする」「興味づけをする」「スポーツを経験する」などのお話はとても重要なことであると認識させていただきました。

実際、香取郡市の小学校においては、一時的に活動する陸上を除いて、部活動は基本的にはありません。

中学校において、話題の部活動の地域クラブへの移行が進むと、土日や休日の活動を積極的に行う生徒と何もやらない生徒が出てきます。また、保護者にとっても送迎や金銭面での負担も増えます。

では、東庄町においては、生徒の受け皿をスポーツだけではなく、文化面も含めて充実した講座を開設する必要があると思います。生涯学習・生涯スポーツの充実と振興が今まで以上に求められるものと考えます。

○岩田町長 分かりました。いろいろなお話を伺いました。

確かに、町として何かよりよい体制をつくる必要があるということですね。また、スポーツにおいても、人気や興味を持てるよう工夫する必要があります。

指導する教員たちの中には、部活動を仕事として考えず、非常に熱心に取り組んでくださっている方もいます。自分が専門的に行ってきたスポーツであればよいのですが、専門的な指導ができず、「サッカーの顧問をしてほしい」「陸上の顧問をお願いしたい」などと、顧問を割り振られてもその指導は難しいことでしょう。強くなればなるほど、保護者も口を出したくなり、学校の中でスポーツを子供たちに教えていくというのはすごく大変な仕事であると思います。

野球についてです。小学校時代には初期的な指導で済みます。指導者も父兄の中での野球の好きな人たちが指導してくれます。ところが、中学生になるとそうはいきません。野球に関する知識・技能は格段に上がるはずですが、それをきちんと教えてくれる先生が重要になります。ほかの競技も同様でしょう。

ある例を話します。旧海上町で、小さい頃から野球をやってきた3人の子供がいました。ところが今は、中学校に野球部がありません。それでどうしたかという、クラブチームに入ることにしました。さらに、親同士もそれぞれ考え、子供たちを別々のクラブチームに入れることにしました。その中で、親の送迎の大変さがあつたり、子供たちも別々のチームで切磋琢磨するようになったりといろいろな課題が生じますが、努力します。そして高校進学となり、それぞれ希望する高等学校進学を果たすこととなります。

義務教育ではなかなかできないグレードの高い指導を地域のクラブチームは担っていることになります。義務教育の中でできる指導は限られています。その中で義務教育らしい指導をしていただいています。指導者に経験がないと、ルールがわからず指導になりません。見よう見まねで指導してきているという時代は過去の話になりつつある気がします。

○岩田町長 岩井職務代理いかがですか。

○岩井教育長職務代理者 私の子供は小学校から中学3年まで野球のクラブチームで活動していました。部活は小学校のときは吹奏楽部で県大会まで行っただし、中学では卓球部に入っていました。要するに、野球をやりながらでも部活動で活躍することもできますし、いろんなことをやらせたほうが良いと思います。

○岩田町長 なるほど。

○岩井教育長職務代理者 結局、息子は肩を壊して野球は続けられなくなりましたが、高校ではバレー部に入り、しっかりと部活動に励みました。人によっては、肘・肩を負傷することもあるので、周りで固めてあげないで、子供の意欲を優先に優しい目で見てあげたほうが良いと思います。

○岩田町長 教育長いかがですか。

○石橋教育長 いろいろなご意見、ありがとうございました。

今まで皆さんの意見をお聞きすると、意見の大半は出尽くしたかと思えます。まずは「スポーツが好き」であること、これが前提です。そして伸びる子、伸ばしたい子、自分自身で伸びたい子など、他人の意見を参考に自分自身で考え意思決定をしていくことが必要です。

私たち教育行政ができることは、それを支援してあげることです。では、どのような支援があるかという点、いろいろな団体との交渉をしたり、近く

の自治体と交渉をしたりし、中学生の地域クラブ活動の充実を図ることが大切であると考えます。

近く、香取郡市町で、「地域クラブ活動に係るガイドライン」を決め、「部活動の在り方」を検討しようということになっております。この件については、教育委員会会議で報告をさせていただきたいと思っております。

○**岩田町長** それでは、皆様方から「部活の地域クラブ活動への移行について」のお話を伺いさせていただきました。誠にありがとうございました。

少子化の時代において、児童生徒数の減少により、部活動の非成立、教員の働き方改革などがあり、部活動を取り巻く環境が大きく変化しております。そのような中で、様々な要素を勘案しながら、また香取地域内での協力体制等も改めて築いていただきたいと、このようにも考えております。今後の地域クラブ活動への移行をスムーズに進めてまいりたいと考えております。町といたしましてもできる限り協力を惜しまないつもりでありますので、よろしくお願いを申し上げます。

○**岩田町長** 次に、議事の②であります。その他ということもございますけれども、何かありましたらお願いします。では、岩井職務代理者をお願いします。

○**岩井教育長職務代理者** 岩井です。町長は、昨年、「東庄町で生まれた子供たちが地域の中で育まれて育ち、そして地域の一員としてやがて東庄町をつくっていくということ」をおっしゃっていました。令和4年ですけれども、この場で教育長が、「地域とともに歩む学校づくり委員会には、小学生の児童会の代表、中学生の生徒会の代表、高校生のボランティアの代表も参加していただき、彼らの意見を聞きたいと思っております」という発言をしていました。私は、「このような機会をつくるのが大切である」と感じましたので、是非、実現していただきたいと思います。いかがでしょうか。また、可能にするにはどのようにしていけばよろしいと思っておりますか。

○**岩田町長** 町民ということを考えれば、生まれ育った子供たち、高齢者も含

めて、全部町民であります。ですから、先ほどの教育の問題も含めて「いろんな意見が聞ける場」というのも考えておりました。

子供たちの意見を聞く場としては学校教育の中で、高齢者の場合は、シニアクラブなど、いろいろな団体の会合の中へお邪魔をさせていただいて意見をお聞きしたいと思います。私は、何か集まり事があるたびに出向いて、お互い打ち解けあいながらいろいろな話を聞くよう心がけてきました。

また、学校であれば、学校の行事があります。この機会をもっと有効に活用することが大切であると考えます。しかしながら、中学を卒業してから大学くらいまでの時期の青年の意見を聞くチャンスというのが本当に少ない状況です。高校生を集めるというのは非常に難しい状況にあります。義務教育の間は町としての関連がありますからどうにかできます。しかしながら、それ以降、高校・大学等20歳前後の青年の代を招集することが本当に難しくなります。教育委員会の中でも、特に生涯学習係が力を尽くし、「青年が様々な会議でオブザーバーとして出席し、様々な意見を見聞きできるようにならないか」といつも考えています。

私自身、若者の意見や夢、要望など様々な話をお聞きしたいと思っています。様々な意見の中に私たちが気づかなかった改善点や良案が必ず出てくると思います。一緒にスクラムを組んで、「東庄町の将来」に向けて、語り合いたいと思います。仲間が仲間を呼び、大きなスクラム、波となっていくと思います。そういうつながりを大事にしていきたいと思っています。

ですから、そういった機会の一つが成人式であると思います。町では、非常に粛々として、素晴らしい儀式が行われています。とかく、近年のニュース報道を見ると成人式で大暴れをしたり、騒いだりしたりする映像をよく見ますが、東庄町の場合は全く違います。これはやっぱり多くの町民の人たちが成人式を見守っている体制をとっている強さかなとも思っています。そして、多くの人たちがそれを祝ってくれるようなムードをつくり上げていくのは、行政の一つの仕事かなとも思っています。この機会を大いに活用して、成人の方々の意見を聞く会を催すことができるとさらに良いのではないかと思います。

以上です。

○石橋教育長 町長からもいろいろな話をいただきありがとうございます。

今、お聞きしていて、高校生から大学生の意見を聞く会がほとんどないという現状があります。その子たちの意見も取り入れながら、東庄町の教育を進めていく必要があります。そして、それが生涯にわたっていかなければいけないと思うところです。

これから事務局で相談してまいります、「地域とともに歩む学校づくり」は、とても大切なことですので、学校・家庭・地域の連携をしながら、学校教育を推進していく必要があります。加えて、生涯にわたる「東庄ならではの教育」を推進するには、中学生・高校生・学生などの意見を聞く場を設ける必要があると感じました。

思いつきで申し訳ありませんが、例えばコミュニティスクールの会議で子供たちの意見を聞いたり、二十歳の門出の代表者の会議の中で彼らの意見を聞いたりするなど工夫ができればよいと感じます。あるいは、生涯学習が中心となりながら「子ども会議（議会）」が作れると良いのではないかと思います。様々な機会を活用して、子どもたちの意見を東庄の教育に生かせるとう良いのではないかと考えます。このような場を設ける工夫を今年度から進めてみたいと思います。

○岩田町長 林委員、どうですか。

○林教育委員 それでは2つの事について申し上げます。

まず1点目は、「文化財の保護」についてです。町長、ご存じと思いますが、旧小学校の文化財について、旧橋小の一角に収納していただいています。しかしながら、その収納状態に問題があります。このままですとなかなか手つかず、埋もれてしまうという可能性があります。そろそろ手をつけないと、記憶が薄れていく可能性があると感じます。展示できる場所の確保と記録の整理が必要です。

また、埋蔵文化財に関する資料も拝見させていただきました。東庄の町の歴史を知る上でとても貴重な資料です。東庄という地域は、かなり古い時代からの遺跡が存在し、中でも、重要な遺跡や価値ある遺物が多くあると聞い

ています。これも、展示場所と整理体制を構築する必要があります。また、城跡とその辺の整備が必要です。遺跡が整備されると、観光をされる方やブームでもある城跡の見学により、町の活性化に一役を担うことができるのではないかと思います。

○岩田町長 なるほど。

○林教育委員 2点目です。先ほどの協議の中でも話をさせていただきましたが、「放課後子ども教室」に関することです。放課後児童クラブ、いわゆる学童への入級希望者がかなり増えてきたというその中で、入級できない学童がいます。その受け皿として、教育委員会主催の「放課後子ども教室」の充実をお願いしたいと思います。昨日、産経新聞に出ていた記事で「今、子供たちの9人に一人が貧困層だ」というのです。保護者は子供に様々な体験をさせたいと願っています。しかしながら経済的に無理な状況もあると思います。また、国は共働きを推奨しています。親が子供たちを長い時間面倒見てあげられる時間が取れないという状況が生まれています。多分、今後どんどん増えていく可能性があると思います。

そういった中で、例えば学力格差やスポーツの技能の格差が考えられます。そういったものも是正するところとして、教育委員会で行っている「放課後子ども教室」が重要な役割を果たすものと期待できます。放課後こども教室は、学習の機会の設定、いろいろなスポーツに触れる機会の提供、技術の向上など様々な工夫を行うことにより、大きな成果を上げることができる取り組みであると思います。町ぐるみでこの「放課後こども教室」を充実させることを考えていただきたいと思います。中・長期的に見た場合、今の生涯学習系のスタッフだけでは当然賅い切れない部分があるので、是非、町全体として、人的な配置を含め、方策、内容の充実についてご検討をいただけるとありがたいと思います。

以上です。

○岩田町長 秋元委員、お願いします。

○秋元教育委員 過去に、総務課主催のワークショップに参加させていただきました。

○秋元教育委員 そのワークショップに参加していただいた年齢層の方の意見というのは、とても貴重だと思いました。次回以降も年齢層をよく考えていただき様々な方からの意見をいただきたいと思います。また、その場では様々な問題提起もあり、それを解決するにはどうしたらいいかとか、そういうのを今後行っていくわけですので、次回からのワークショップにも期待しています。町民の方の意見も聞きたいなと思っていますし、それを基に、教育委員という立場でどうするかを考えていきたいと思っています。昨年、私は行けませんでした。山形の遊佐町の少年議会を教育長と岩井・林委員両名が見学に行かれました。そしてその報告をお聞きすると、子供たちの意見が町政に活かされているということを知りました。成人になった子供たちや学生の意見を全然聞けず、その子供たちは東庄から離れてしまうことが多い状況ですので、外から見た「東庄の良さ」に気づいてもらうためにも、そういう意見を交わす場が大切です。いろいろな年齢層の方の意見を取り入れて、「東庄町の良さや未来」を考えられると良いのではないかと感じています。

以上です。

○岩田町長 ありがとうございます。

最後に、教育長お願いします。

○石橋教育長 いろいろご意見ありがとうございます。

まず、林委員がおっしゃった文化財の保護等々に関しては、旧小学校の文化財の整理が必要です。各小学校の文化財にはどんなものがある、どんなものが今保管されているのかという整理をする必要があります。今年度から会計年度任用職員を雇っていただき、その整理を行っています。今後、展示・公開に向けて検討していく所存です。

また、埋蔵文化財に関する整理についてですが、各遺跡出土の遺物の整理が未整理であるという状況があります。中には、とても重要な資料がありま

すので、少しずつ、丁寧に整理をして、公表できるように努めたいと思います。次年度、旧石出幼稚園の園舎を「(仮称)東庄町文化財センター」として整備したいと考えています。

また、今年度、国際ドローン協会と共同で、東庄町の城跡について上空からレーザーを当てて地形を測量してみようと思っています。新たな建造物の発見も期待されることです。

「放課後子ども教室の充実」についても、積極的な放課後子ども教室の運営を考えたいと思います。スポーツあるいは文化活動を充実させた「放課後子ども教室の運営」を進めます。立地的に見ても東庄小学校・公民館・学童の教室が近く活動しやすいという条件を生かした「放課後子ども教室の充実」を考えてまいりたいと思います。

現在の生涯学習係の人数ではなかなか難しいところがありますので、人的配置や社会教育主事の配置も含めた体制づくりを考えていかなければいけないと思います。

また、秋元委員がおっしゃった内容については、そのワークショップの内容を把握する必要があります。8月7日に行われる学校運営協議会で、その内容の概要を総務課企画財政係の職員から説明をしてもらう予定です。学校・家庭・地域に関連する内容であれば、是非、学校運営協議会でも取り扱いたいと思います。また、様々な世代の方々や若者からの意見はとても大切であると認識しています。教育委員会としてもこのような機会を増やしたいと思います。いろいろなご意見ありがとうございました。

以上です。

○**岩田町長** いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

他にいかがですか。どなたでも結構ですので、お願いしたいと思います。

○**岩井教育長職務代理者** 少年議会の話をしてもいいですか。

○**岩田町長** どうぞ、岩井委員。

○**岩井教育長職務代理者** 岩井です。よろしくお願いします。

北総地区は、全体的に過疎化が急速に進み、「このままではいけない」という危機感が高いと思います。私が伝えたいのは、「この町の子供たちが、将来住みたくなるような町にしたい」ということです。例えば「未来の町を自分たちで考え、つくっていける環境」を大人で提供するのはいかがでしょうか。

私たちが昨年視察に行った山形県遊佐町は人口1万3,000人の町です。遊佐町では、20年前から、未成年の少年町長と少年議員を選挙で選び、政策をつくり、実行しています。例えば、地元の名産品を使ったレシピ本を作ったり、JRの電車の発着を通学時間に合うように通学バスを運行・調節を要請したり、若者の居場所づくり、まちのキャラクターの絵本、町内名所のかるたを作ったりするなどたくさんの子供たちが実践しています。そして、その町づくりを経験した子供たちが、町に残り、町づくりを実践しながら大人になっています。

東庄でも懸命に町の将来を考え、すばらしい施策を実行していただいておりますが、「東庄の子供たちが自分の将来のことを真剣に考え、話し合う、話し合いを実行する」機会を私たち大人が親身になり作ってあげなければならないと思いませんか。

山形県の遊佐町の少年会議ですが、政策実現のために毎年町から45万円の独自予算を設けています。この予算を使い、決められた期間で政策を実行しています。事務局は教育委員会の社会教育係にあります。会議の委員は総務課、選挙管理委員会、議会事務局、企画課、教育委員会の職員から構成されています。いかがでしょうか。東庄町でもこのような実践をしていただけないでしょうか。最後に私から一つの提案をお伝えさせていただきます。

以上です。

○**岩田町長** 教育長、何かありますか。

○**石橋教育長** 私も山形県遊佐町の少年議会と一緒に視察をさせていただき、大変すばらしいと感じました。本町では、中学2年生における「中学生議

会」という模擬議会を実施しています。中学生だけではなく、高校生や学生の方々の意見を聞く場としてこのような取組は重要であると認識しています。「自主的、自発的に物事を考えられる子供たちの育成」を模索しながら、少年議会の立ち上げ等を考えていきたいと思えます。「まずは、やってみる」ことが大切です。中学生・高校生・大学生などが「意見を聞く場、あるいは意見を言う場」の提供を考えていく必要があります。その実現に向けて検討してまいります。

以上です。

○**岩田町長** いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。

本日、皆さんの意見をお聞きし、最後は、山形県の遊佐の少年議会のお話も伺いました。遊佐町は「少年議会」を途切れさせず、ずっと続け大切にしてきたということをお山形県の町村会長からも聞いております。

子供の意見だからということで、一時的に取り計らったというのではなく、子供の意見を大切にしながら、町政に役立てる工夫をしてきたと思えます。やがて大人になる子供の意見を十分取り入れて、またその子供がまちづくりを進めていく姿勢が大切です。また、ある年齢がくればその子供たちも選挙権を持ち、議員として再登場するという事も聞いています。大変ためになるお話を伺いました。

山形県の町村会長さんは、「時代は変わっても、そこに住む人たちは、大きな夢を持ち、発展させていきます。そして、子供の時代に培ったものは、永遠につながり、自分という存在がなくなるまで持ち続ける」というようなことも話しておられました。単なるまねごとではなくて、本物の議会をしているということであると思えます。本町でも、ぜひ一度視察に行ってみたいと思えます。

様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。今日お聞きした意見を参考に、今後とも努力してまいりたいと思えます。また、教育委員の皆様におかれましては、その都度、様々なご指摘、またご意見を賜りたいと思えますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

た。

○堀江総務課長 おつかれさまでした。それでは、これで令和6年度第1回東庄町総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。
(午後2時59分 閉会)